

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 生徒が実感できる学・体力の向上 2 生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進 3 メリハリのある生徒指導のステップアップ 4 地域に開かれた学校の実現
------	------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	これまで整備した学習環境基盤の上で、一方通行でない、生徒が目を輝かせて授業に参加するような活力ある授業実践が望まれる。教員の指導力の向上と生徒の実態に即した授業展開の工夫、相対的な学力を可視化し、明らかになった課題の改善を図る必要がある。	生徒が実感できる学・体力の向上	①英語・数学の習熟度別授業を実施するとともに、授業アンケートを実施し、授業改善を図る。経験豊富な教員による“ベテラン塾”の実施。 ②英検・漢検の全員合格に向けての気運を高めるプロジェクトを実施する。 ③外部模試を年2回行い、相対的な学力の伸びを測定する。 ④グローバル教育を推進し、国際理解を深め、外向き志向の人材を育成する。	①教科内授業公開・研究協議の実施。授業アンケートを活用した授業改善。 ②英検・漢検全員合格を目標とした校内での気運を醸成する取組を実施し、合格率増を図る。 ③外部模試のデータを蓄積・分析・可視化し、課題を改善する。 ④グローバル教育を推進する取組の増加。	①各学期ごとに教科内授業公開・研究協議を実施した。更に学期ごとに全教員の授業アンケートを実施し、結果をフィードバックした結果、授業が改善された。 ②学年ごとに朝学習の活用、ポスターを作成するなど、気運を醸成し検定を実施した。合格率は英検29.8%、漢検7.1%と昨年を上回ることはできなかった。 ③4月、2月に外部模試を実施する。 ④外務省職員による講演会、2学年の海外修学旅行等を実施した。	A
2	生徒一人ひとりの就業観の育成と適性の把握に努めるとともに、教員の進路指導に対する力量を高め、将来を見据えた進路指導を推進する必要がある。保護者の進路意識も向上させ、補習体制を整備し、公募推薦や一般受験での上位校への挑戦者増加が課題である。	生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進	①進路に対する意識向上を図り、進路決定率の増加を図る。 ②補習体制を工夫し、上位校に挑戦する気運を高める。 ③進路ガイダンスや教員研修を実施し、併せて、保護者への啓発活動を積極的に行う。 ④進路実績の向上に直結するような教育課程の見直し。	①進路決定率95%以上。就職内定率100%。 ②センター試験、一般受験、公募推薦受験者数30名。(大学) ③外部講師を招いての教員勉強会の実施。保護者と連携した、有効な啓発活動の実施。 ④教育課程の見直しは図られたか。	①現在、全体の進路決定率は89.7%、就職内定率は100%である。 ②センター試験、一般、公募推薦受験者数は8名である。 ③各種進路研修会、説明会に出席し情報を共有したが、外部講師を招いての勉強会の一部教員のみにとどまった。保護者役員と教員で先進校視察を実施した。 ④新教育課程を見据え、検討中である。	B
3	継続的な登校指導、整容指導により、大きな成果がでている。今後は強制的な指導から生徒自身が善悪を考えて行動できるよう自律した指導形態への移行を目指す。遅刻撲滅と挨拶励行については組織的に取り組む。努力した生徒を認める表彰制度などを再構築する。	メリハリのある生徒指導のステップアップ	①“ならぬことはならぬ”指導を継続し、基本的な生活習慣の定着を組織的に取り組む。 ②日々の学校活動において陰ながら努力する生徒を表彰する。 ③アルバイトの許可制を適切に運用し、部活動に目を向けさせ、他校と交流を深め、刺激を受けながら部活動の活性化を図る。	①登校指導、整容指導を継続し、遅刻件数を1.0%未満。また、自ら挨拶する生徒の割合75%以上。 ②校内表彰を2回以上実施。 ③他高校や中学校と交流回数の増加。部活動の活性化のための取組の増加。	①毎日の登校・整容指導、挨拶運動を行った。遅刻率は1.2%、自ら挨拶する生徒の割合は69.0%である。遅刻撲滅キャンペーンでは成果を上げた。 ②年4回実施する校内漢字テストの成績優秀者を表彰した。 ③各部の大会組み合わせ・結果や発表会等のポスター、生徒の活躍の様子を掲示報告するなど気運を高めた。また、新たに4枚の応援用横断幕を作成した。	B
4	地元小中学校や地域機関との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する必要がある。また、生徒会を中心に生徒を前面に出し、自発的に発案実施できるようなリーダー層の育成が課題である。	地域に開かれた学校の実現	①授業公開週間や体育祭の公開を実施し、開かれた学校づくりを推進する。 ②生徒会活動を活性化させ、地域の行事に積極的に参加し、リーダーシップの養成を図る。 ③生徒会自らが発案企画し実施できるような意識づくりの育成。 ④学校説明会の内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ⑤HPやメディアを積極的に活用し、情報発信する。	①授業公開、体育祭公開の来校者数280名以上。 ②地域との交流回数の増加。15回以上。 ③生徒会が発案企画した取組の実施。 ④学校説明会の中学生、保護者の参加数合計1,000名以上。 ⑤HPの更新は月4回以上。メディアへの情報提供の増加。	①授業公開、体育祭公開の来校者は248名で、昨年を下回った。 ②生徒会、各部活動を中心にイベントに協力した。27事業、延べ542名が参加した。 ③生徒会主催の球技大会を実施した。朝の挨拶運動も継続して行っている。 ④学校説明会の中学生、保護者の参加者数は900名であった。 ⑤ほぼ毎日HPを更新した。メディアにも記者クラブを中心に積極的に情報提供し、新聞・市報への掲載、ケーブルテレビにも取り上げられた。	A

学校関係者評価	実施日 平成28年 2月 9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートでは生徒の理解度は教科によって差があるようである。校長先生との面談を活用し、授業改善に取り組んで欲しい。(保護者) ・落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている様子が伺える。今後も生徒が自主的に行動し、活発に学習に取り組めるよう指導して欲しい。(評議員) ・進路に関する資料が少ないように感じる。幅広い進路希望にも対応していただけるとありがたい。(保護者) ・より高い目標を持って進路実現に向かって欲しい。もっと頑張れば実績を残せるはずである。(保護者) ・ここ数年の様子を見てみると、地域からの評価は良くなっている。上位校への進学ができるレベルにあるので更なる底上げを期待する。(保護者) ・他律か自律かがポイントであり、自分達でルールを守る雰囲気を作っていくことが大切。教員と生徒が一緒になってやっていくことが重要である。(評議員) ・周囲の保護者から庄和高校の様子を耳にする。学校に来て生徒を見ると良い雰囲気で楽しく学校生活を送っているのが良くわかる。(保護者) ・服装で学校の評価をされてしまうのが現実。一人ひとりが自覚を持ち、自分の学校を誇れるようにして欲しい。(保護者) ・この地区は小中高の連携が盛んであり、色々な場面でそれぞれの学校の様子を見ることが多くなった。庄和高校の体育祭を見たが、非常に良かった。生徒を見て大きな可能性を感じた。(評議員) ・HPや外部への活動を充実させ、生徒も教員もこの学校は素晴らしいと誇りに思うことが大切。保護者の協力も必要である。(評議員) ・校長先生のカラーが出てきたと感じている。地域に根ざした素晴らしい高校を目指して欲しい。(保護者)